

平成24年度  
文化アセスメント  
実施結果報告書

2013(平成25)年9月  
川崎市文化芸術振興会議

平成25年9月17日

川 崎 市 長  
阿 部 孝 夫 様

川崎市文化芸術振興会議  
会 長 澤 井 安 勇

### 平成24年度文化アセスメント実施結果の報告について

川崎市文化芸術振興会議より、川崎市文化芸術振興条例第8条に規定された文化アセスメントについて、平成24年度の実施結果を報告します。

文化アセスメントは、市民生活の充実やまちづくりの進展に向けて取り組まれている「川崎市文化芸術振興計画」上の重要な事業を選び、それらの事業の取り組み内容について実地に確認を行いながら、事業の目的、文化芸術性、市民とのかかわりおよび効率・効果等の視点から、当該事業が有効かつ適切に実施されているか総合的に検証し、さらに目的達成のため改善すべき方向性などについて文化政策的提言を行うものです。

近年の市の文化事業への取組により、川崎のまちは、「音楽のまち」、「映像のまち」などの新しい魅力が輝く個性的なイメージが定着してきました。これは、文化芸術振興計画や計画に基づく市の取組の大きな成果であり、市民が愛着と誇りをもって暮らすことのできるまちづくりを進めることは、都市の創造、発展の重要な要素となります。これら、文化の振興を基にしたまちづくりについて、今後とも継続的に取り組んでいただき、まちの持続的な発展に繋がっていくことを期待します。

今回の文化アセスメントの対象については、川崎の今後の文化の担い手である、青少年への教育における文化の活用に着目し、「子どもの音楽活動推進事業」と「青少年科学館の管理運営」を選定しました。その評価作業については、川崎市文化芸術振興会議の委員が手分けして個々のプロジェクトや施設を視察し、事業関係者、担当行政部局等からのヒアリングおよび意見交換なども実施しながら評価を進め、全体討議を経て、最終的に委員全員の合意により評価書を作成したものです。限られた時間と人的体制の中で実施されたものであり、個別には意を尽くせなかった部分も残りましたが、全体としては現時点で作成しうる最善の結果報告であると考えますので、この報告が川崎市における今後の関連施策に適切に反映されることを期待いたします。

# 平成24年度文化アセスメント実施結果報告

## 1 対象事業及びその選定理由

### (1)対象事業

A 子どもの音楽活動推進事業

B 青少年科学館の管理運営

### (2)対象事業の選定理由

子どもの音楽活動推進事業については、文化芸術振興計画の事業計画「3文化と教育・青少年」に該当する事業であり、学校教育における文化振興の中心的事業であるため。

青少年科学館の管理運営については、文化芸術振興計画の事業計画「3文化と教育・青少年」に該当する事業であり、平成24年度にリニューアルオープンし、その有効な活用が求められているため。

## 2 評価結果

### A 子どもの音楽活動推進事業

#### (1)事業の目的・概要

担当課	教育委員会指導課	
振興計画上の位置づけ	1 文化と教育・青少年	視点: ① ⑤ ⑨ ⑩ ⑪
	児童生徒が音楽などの文化芸術に対する豊かな感性や愛する心情を育み、社会参加の機会、子どもの豊かな情操を図り、地域社会づくりを推進する。	
事業概要	子どもが音楽に親しみ、豊かな感性が身につけられるよう、オーケストラの鑑賞や、子どもの音楽の祭典、市内音楽大学と連携したジュニア音楽リーダー育成事業、地域の音楽家との交流などを推進します。	
目的	音楽に対する豊かな感性を育み、音楽に親しんでいけるよう音楽のすばらしさを体験させ、心豊かなまちの実現を目指します。	

#### 取組

番号	名称	概要・目的
A 子どもの音楽推進事業	子どものためのオーケストラ鑑賞	<p><b>概要</b> 小学校の児童生徒にプロのオーケストラ演奏を鑑賞する機会を提供する。 2日間5公演に拡大実施 会場:川崎市教育文化会館 演奏:東京交響楽団 (81校、7769名参加)※応募校すべてが鑑賞</p> <p><b>目的</b> 小学校の児童生徒に、本格的な音楽ホールでプロのオーケストラ演奏を鑑賞する機会を提供することにより、子どもたちが音楽のよさや美しさを感じ取り、豊かな情操を育てていけるようにする。</p>
	子どもの音楽の祭典	<p><b>概要</b> 市内の小・中学生・高校生が、日頃の音楽活動の成果を発表する機会を設定する。 会場:川崎市教育文化会館 ☆ヤングかわさきジョイフルバンド公演 約90名の中学生・高校生が集い演奏 ☆子どもの音楽発表会 小・中15組が演奏</p> <p><b>目的</b> 子どもたちが音楽の素晴らしさや楽しさを味わうことを通して、音楽のあふれる心豊かなまち・かわさきの実現をめざす。</p>
	ジュニア音楽リーダーの育成	<p><b>概要</b> 中学生を対象に、洗足学園音楽大学、昭和音楽大学にて、それぞれ3回ずつ音大生、大学院生が演奏指導を行う。 (洗足学園の3回目は荒天により中止)</p> <p><b>目的</b> 小中学校で音楽活動の推進役を務める子どもたちを育てるとともに、将来にわたって川崎の音楽文化の発展を担う人材を効果的に育成する。</p>
	地域に開かれた子どもの音楽活動	<p><b>概要</b> 市内で活躍する音楽家や市内の音楽大学等と連携をしながら、各学校の音楽活動を推進する。 20校で実施(応募数32校) ☆発声・合唱指導 ☆和太鼓・箏など和楽器の指導 ☆管・弦楽器の鑑賞・体験活動支援 ☆リトミックなどの参加型体験活動 等</p> <p><b>目的</b> 音楽に対する豊かな感性や音楽を愛好する心情を育み、生涯にわたって音楽に親しむことができるよう地域の演奏家等を招いて学校ごとの特色を生かしたプログラムを実施する。</p>

## (2) 評価

### 取組への評価

#### A 子どもの音楽活動推進事業

##### (1) 事業の目的

川崎市の文化振興計画上の基本目標の一つに「人材育成」が掲げられているが、感性が豊かな時期に、高度な音楽芸術に触れ、また自ら活動に参加する機会を提供することは、子どもたちの芸術への関心や感性を育み、子どもの将来にとって有意義な事業といえる。また、4つの事業がそれぞれ、音楽に親しむいざないとなるような事業から、発表を通じた豊かな表現力の養成まで、児童生徒のレベルに応じて体系立てられ、効果的に機能している。

このような事業を通して文化の担い手の裾野を広げていくことが、10年、20年後の川崎市の文化の振興に繋がるため、子どものためのオーケストラ鑑賞のような本物の音楽に触れる機会は、アウトリーチの実施などによりなるべく多くの児童生徒が体験できることが望ましい。

##### (2) 文化芸術性

子どものためのオーケストラ鑑賞は、プログラム全体を通して子どもたちが飽きずに最後まで鑑賞できるよう工夫がなされており、音楽鑑賞への導入として非常によく練られている。また、オーケストラと子どもたちが一体となって歌う「かわさきのねいろ」は単に鑑賞するだけに終わらず、双方向の体験型の演奏会となり、より効果的であったと思われる。

子どもの音楽の祭典について、第一部のジョイフルバンドは、バンドも合唱も水準が高く、迫力のある演奏であった。第2部の音楽の祭典については、出場者にやや、技量のばらつきがみられたが、技巧はもとより、音楽的な表現に優れた演奏も多く、他の演者にとっても刺激となったと思われる。

##### (3) 市民とのかかわり

オーケストラ鑑賞は、参加した児童からの聞き取りや表情から、子どもたちにとっても非常に満足度が高い内容であったと思われる。

子どもの音楽の祭典についても、非常に聞き応えのある内容であったが、観客の多くは出場者の関係者と見受けられる。教育だより等による広報で、子どもがいる家庭にはよく知られた行事であると思われるが、近隣の住民が気軽に聴きに来るような行事になると、演奏者の刺激にもなり、より良い効果を発揮すると思われる。

##### (4) 効率・効果

子どもの音楽の祭典のヤングかわさきジョイフルバンドや、ジュニア音楽リーダー育成事業のように、普段交流の無い他校の生徒と触れ合い、共に練習を積むことは、その生徒たちにとって非常に良い刺激になると思われる。また、これらの事業については、東京交響楽団や市内の音楽大学、地域の音楽家等の協力のもと行われている事業が多く、地域の音楽資源が一体となって子どもたちの育成に取り組んでいることがうかがえる。

総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> A : 継続 <input type="checkbox"/> B : 改善 <input type="checkbox"/> C : 見直し
<p>評価の理由等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものためのオーケストラ鑑賞は、大人数にも関わらず整然と入退場を行い、演奏中もほとんどの児童が集中して静かに鑑賞していた。また、子どもたちは、身近な楽曲を通して楽器や生演奏の魅力に触れることができるだけでなく、合唱により自らも参加することができる構成となっている。こうした事業全体のスムーズな進行管理や、効果的なプログラムの構成は、過去の経験を基に改善してきた成果と思われ、評価したい。</li> <li>・子どもの音楽の祭典については演奏の水準も高いものが多く、「祭典」にふさわしい内容であった。特に、各学校の生徒がオーディションを経て結成されるジョイフルバンドについては、普段交流のない他校や他学年の生徒とともに練習を通して触れ合える機会であり、生徒にとっても貴重な経験になると思われる。一方で、舞台設営や表彰式の進行等で流れが散漫となる場面もあり、曲目や式の進行・構成等には改善の余地があると思われる。</li> </ul>	
<p>提言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものためのオーケストラ鑑賞については、全校参加が望ましいが、北部の学校は地理的な要因等で参加しにくい面がある。小編成のオーケストラによるアウトリーチや、地域のオーケストラの活用など、なるべく多くの児童が、生演奏の魅力に触れることができる機会の設定が望ましい。</li> <li>・子どものためのオーケストラ鑑賞において、開催前に注意事項等についての説明があったが、拍手のタイミング等、鑑賞する際のマナーについて、実際の演奏プログラムに取り入れながら説明していくと、より効果的かと思われる。</li> <li>・子どもの音楽の祭典について、より将来につながる企画とするため、第一回目からの総括や、過去の参加者へのインタビューなどの後追い調査により事業の効果を測定してはどうか。</li> <li>・子どもの音楽の祭典の観客構成については、出演者の関係者中心となっているが、一般の観客でも十分に楽しめる水準の演奏である。観客の増加は、出場する生徒たちの刺激にも繋がると思われるが、子どものいない世帯の認知度はあまり高くないと思われるため、近隣の老人いこいの家など、周辺地域の施設等への広報を強化することにより、周知度や観客数の増加を図ってもらいたい。</li> </ul>	

## B 青少年科学館の管理運営

### (1)事業の目的・概要

担当課	教育委員会青少年科学館	
振興計画上の位置づけ	6 文化と教育・青少年	視点: ①⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪
	各博物館などがそれぞれの専門性を活かし、博物館活動などを効果的に行い、効率的な運営を推進する。	
事業概要	自然科学に関する資料の収集・保管・展示や調査研究、プラネタリウム投影や教室、講座講演会の開催等による教育普及	
目的	青少年の科学知識の普及啓発及び科学教育の振興に寄与することを目的とする。	

### 取 組

番号	名 称	概 要 ・ 目的
B 青少年 科学館	展示事業	概要 ・自然展示…「川崎の自然」や「生田緑地の地層」などをテーマにした展示 ・天文展示…解説員が企画・制作し、肉声で解説する「MEGASTAR III Fusion」によるプラネタリウム投影 ・科学展示…先端技術等をテーマにした企画展の開催
		目的 地域の自然に親しみ、知識を深めることができるように、身近なフィールドである生田緑地や川崎の星空と連動した展示を行う。 市民・利用者が最新の情報に触れられるよう、日々移りゆく自然の様子や最近の研究成果などを反映した展示の更新を行う。 市民・利用者の疑問や興味関心にきめ細かく対応した展示解説を行い、自然や天文、科学技術等へのより深い理解と関心につなげる。
	教育普及事業	概要 ・自然体験…緑地での観察会やワークショップ、近郊の自然学習教室と連携した見学・体験活動 ・天文体験…プラネタリウム番組の制作教室や、アストロテラスでの天体観測、プラネタリウムと音楽などの異分野と融合した事業 ・科学体験…科学教室等の講座開催や、科学実験ツールの開発・運用 ・学校支援と人材育成…学校支援プログラムの開発等、学校が利用しやすい環境整備。ボランティアの育成等
		目的 展示を活用した学習プログラムやフィールドワーク、実験等、体感・体験できる講座を提供し、実体験に基づいた生きた知恵を育てる。 市民・利用者の興味関心や学齢に応じてステップアップできる段階別の講座を提供することで、多様なニーズに応え、専門性を深めることができる学習支援を行うとともに、科学教育等に関する研修を充実させ、各分野の人材の育成や、指導者の養成に努める。

調査研究事業	概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然分野…市民団体等と協働で行う川崎市域の自然環境や動植物の分布の経年調査等</li> <li>・天文分野…天体や太陽表面、川崎市域の星の見え方調査等</li> <li>・科学分野…科学実験教材の開発運用など市の科学教育推進に必要な調査研究</li> </ul>
	目的	<p>自然と都市の要素を包含する川崎市において、自然と人間の共存を考えるうえでの重要な要件を見だし、考察を深めることを目的として、学芸担当職員を中心に自然環境の調査や川崎で見られる天体の調査を行う。</p> <p>科学教育を効果的に推進するために必要な調査研究を行う。</p>
収集保存事業	概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然分野…自然に関する標本の収集・整理・分類や資料のデータベース化</li> <li>・天文分野…観測資料のデジタル化やデータベース化、プラネタリウム番組の収集保管</li> <li>・科学分野…教育普及のための科学実験手法等資料の収集保管</li> </ul>
	目的	<p>標本やデータ等の所蔵資料を分類・整理して適切な保存管理を行うことにより、川崎市域の貴重な自然史資料・天文資料を次世代へ確実に継承する。</p> <p>データベース化した所蔵資料の公開や、資料を使った講座の開催等により、所蔵資料を効果的に活用する。</p>
ネットワーク事業	概要	<p>市民、大学、研究機関、企業等の専門性や地域性を生かした連携や、生田緑地を活用したまちづくりへの参加・協力</p>
	目的	<p>生田緑地内の文化施設をはじめとする多様な団体や関係機関との連携により、市民・利用者にとって魅力的な活動を幅広く展開する。</p> <p>多様な団体や関係機関が、それぞれの専門性や地域性を生かして連携することで、相互補完や相乗効果による総合力を高めることをめざす。</p>



## (2) 評価

### 取組への評価

#### B 青少年科学館の管理運営

##### (1) 事業の目的

リニューアルした青少年科学館は、周囲の生田緑地の豊富な自然と連動した展示がなされており、館の展示を見て仕組を学習した後に、実際の自然の中で確認することができるよう構成されている。生田緑地全体を教材に見立てており、個々の学校では体験できない自然科学や天文科学を実施に体験しながら学べる施設として、青少年への科学知識の普及に大きな役割を果たしていると思われる。

##### (2) 文化芸術性

プラネタリウムについては、教師や生徒が自ら作成したプログラムの投影や市内の各学校の実際の校庭からの景色を取り込んだ投影など、生徒が自らの生活に結び付けやすい仕組となっている。また、館のプラネタリウムの特徴として、柔軟にプログラムを作成したり、映像を取り込むことが可能であるため、音楽イベントや朗読等、文化事業とのコラボレーションも行いやすい。こうした取組みは、施設の新たな魅力の発信や、新規の観客の獲得に有効と思われるが、映像面や音楽とのマッチング等について、プラネタリウムの特性や魅力を活かしきれていない面もあるように思われる。模索している段階と思われるが、経験を積み重ねていく中でさらに改善し、効果的な事業につなげていって欲しい。

##### (3) 市民とのかかわり

市民が参加・体験できる教育普及事業が年間を通して行われており、来館客からのアンケートについても今後の事業のための分析を行うなど、来館者の参加や意見の反映を積極的に行っていく姿勢を評価したい。

一方で、来館者の居住地分布を見ると、川崎区・幸区などの市南部からの来館者が少ない。川崎市の地理的特性による部分は大きいと思われるが、永年の課題でもあり、これらの地域からの誘客に向けた取組みを促したい。

##### (4) 効率・効果

館のリニューアルオープン後、岡本太郎美術館や日本民家園の来館者数も大きく伸びている。館のホームページ自体も生田緑地全体を楽しむことを意識した構成となっており、緑地全体の魅力を知ってもらうきっかけとなっていると思われる。

館の組織体制については、天文系の学芸員が1名いるのみであり、自然分野や科学分野については、行政職員や大学、市民、NPO団体等との連携により支えられている。これまで、科学館が築いてきたネットワークを活用する取組は評価できるが、館の体制の検討や職員の人事異動等についての配慮などが求められる。

総合評価	<input type="checkbox"/> A : 継続 <input checked="" type="checkbox"/> B : 改善 <input type="checkbox"/> C : 見直し
<p>評価の理由等</p> <p>館内展示と館外の自然環境が連動し、実際の自然を体感しながら学習できる館の構造や、周囲の環境を最大限に活用した数多くの教育普及事業は、青少年の自然科学等への関心や学習意欲を高めることに非常に効果的であると思われる。</p> <p>また、小田急電鉄との連携による広報展開などの費用をかけない広報手段の模索や、施設を活用した文化事業の開催による新たな客層へのPRなど、来客獲得に向けたリニューアル後の取り組みについて評価したい。</p> <p>一方で、学芸員不足の問題や、市南部地域からの来客者の少なさ等については、永年の課題とも思われるが有効な対策がなされていない状況であり、改善のための取組を求めたい。</p>	
<p>提言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平日のプラネタリウム投影について、学校利用が無い時間帯を一般客の利用に充てるなど、柔軟かつ効率的な運用により、誘客を図っていくべきである。</li> <li>・館の学芸員については、天文系の学芸員が1名いるのみであり、学芸関連業務の専門性や継続性の担保が課題である。複線型人事制度(特定の専門性の高い職務分野において、その職務に専任できるようなキャリアプランを設定し、専門家を育成する制度)の導入など学芸業務にあたる職員配置についても検討すべきである。</li> <li>・野鳥の鳴き声や虫音などとプラネタリウムのコラボレーションや、実際の屋外での星空コンサートなど、周囲の美しい自然環境を活かした事業の実施により、館や周辺地域の魅力を発信してもらいたい。</li> <li>・プラネタリウムを活用した音楽イベント等の事業について、音楽と天体のコラボレーションは非常に幻想的であったが、随所に挿入されている写真やアニメーションなどの天体投影以外の映像については、やや、物足りない面もあった。映像効果等についてのノウハウが豊富な日本映画大学と連携した企画などにより、アドバイスを受けることができれば、より魅力的な企画となると思われる。</li> <li>・プラネタリウムのイベント事業の前売りチケット販売が、科学館の受付での販売となっており、二度来なければならない状況である。南部地域からの集客等は永年の課題と思われ、電話での予約受付など、これらの地域の方々に参加しやすい形でのチケット販売を検討する必要がある。</li> </ul>	

平成24年度文化アセスメント実施結果報告書  
2013(平成25)年9月  
川崎市文化芸術振興会議

(事務局) 川崎市市民・こども局市民文化室  
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地  
電話 044-200-2029  
FAX 044-200-3248